

「アメリカ新政権と2009年の国際政治」

(2008/11/25 関西社会経済研究所・関西経済連合会)

中西寛 (京都大学)

I. オバマの勝利

1) オバマという人物

アフリカ黒人エリートと白人リベラル女性の子

貧しい出自とトップ・エリートの教育

アメリカの外 (ケニア、インドネシア) と内 (妻、友人—解放奴隷の裔)

若さと成熟 (若者の動員、奇策なき勝利)

2) 選挙分析

	オバマ	マケイン
白人	43%	55%
アフリカ系	95%	4%
ヒスパニック系	66%	32%
アジア系	61%	35%
男性	49%	48%
女性	56%	43%
無党派層	52%	44%
プロテスタント	45%	54%
ユダヤ	78%	21%
初めての投票者	68%	31%

若年層、中低所得者で圧倒的支持。高年層、高所得者で半々。

分裂からの脱却志向。

3) 政権人事

迅速な移行チームの設定と任命公表

財務長官 ティモシー・ガイトナー (サマーズは国家経済委員会委員長?)

商務長官 ビル・リチャードソン?

国務長官 ヒラリー・クリントン? ケリー上院議員?

国防長官 ロバート・ゲーツ留任? ダンジグ元海軍長官

国家安全保障担当補佐官 ジェームズ・スタインバーグ (テキサス大学公共政策)?、
スーザン・ライス (元大統領特別補佐官)?

対外政策スタッフ

フランク・ジャヌージ、ウエンディ・シャーマン、ジェフリー・ベイダー、リチャード・ブッシュ、マイケル・シーファー、カート・キャンベル

2. アメリカの課題

1) 1980年代～2000年代からの転機

グローバル帝国としてのアメリカ

ハイテク兵器と強いドル

SDI → 「RMA (軍事革命)」

規制緩和 → ドルの世界通貨化と世界市場の一体化

hyperpower と構造的アンバランス

強いドル政策 ↔ 経常収支赤字

消費大国 ↔ 低貯蓄、財政収支赤字

世界市場統合 ↔ 経済力の拡散

RMA 軍事大国 ↔ 非対称的脅威 (テロ、ならず者国家)

単独主義 ↔ 国際的孤立

中産階級の分解 ↔ 国内政治の分裂

2) 世界経済体制の再構築

・当面の政策：不良債権処理、資本注入、景気対策

・ドルの協調的減価と責任分担

新興国の取り込み、支援－イタリア・サミットの枠組み (G8、G8+O5, MEM

16, G20?)

・WTO ドーハラウンド交渉

・地球温暖化対策と経済成長モデルの転換 (資源節約・環境維持型モデル)

例：産業再生と地球温暖化対策の組み合わせ

排出権取引の採用、ヨーロッパ重視か、中国・インド重視か

COP15 (コペンハーゲン) へ

3) 対中東政策

イラク政府との合意による米軍撤退

アフガニスタン作戦増援。パキスタン政策

中東和平

イランとの対話

4) 米欧関係の再構築

グルジア問題 (南オセチア、アブハジアの地位)

ウクライナ 議会選挙、大統領選挙

ロシア 経済後退、双頭制

4月 NATO 創設60周年首脳会議

5) アジア政策

政策としての緊急度は低い

北朝鮮政策

6者協議枠組みの継続、米朝協議での対話（硬軟両方の可能性）。

APEC の利用

日米、米韓関係－安保・経済両面。北東アジア安保対話の模索

米中関係－政権の基本課題

II. 日本の課題

クリントン政権期の記憶は忘れてよい

人的信頼関係の構築（安保人脈に限らず、政官財知民各層で）

同盟再編（基地、ミサイル防衛）、テロとの戦いへの協力

貿易摩擦よりも円高内需政策への準備、エネルギー・環境政策

対北朝鮮政策。拉致へは less sympathetic だろう。妥協点の模索

日米中関係

パキスタン・アフガニスタン関与、イラン、インド洋、国際貢献

	P5	G4	G8	O5	BRICs	M16	G20
アメリカ	○		○			○	○
日本		○	○			○	○
イギリス	○		○			○	○
フランス	○		○			○	○
ドイツ		○	○			○	○
イタリア			○			○	○
カナダ			○			○	○
ロシア	○		○		○	○	○
中国	○			○	○	○	○
インド		○		○	○	○	○
ブラジル		○		○	○	○	○
メキシコ				○		○	○
南アフリカ				○		○	○
アルゼンチン							○
オーストラリア						○	○
インドネシア						○	○
サウジアラビア							○
トルコ							○
韓国						○	○